

授業概要

知覚は、感覚器官を通じて自分の周りの環境について知ることである。知覚は受容細胞が刺激エネルギーを感知することで始まるが、外界を映し出すものではなく、外界を推測するものである。私たちは、見たり聞いたりすることを当然のこととして慣れ親しんでいるため、そこに非常に複雑な情報処理過程があることや、知覚が推測によって成り立っていることにほとんど気づかない。本授業では、知覚の不思議を楽しく実感できるように、実例を加えながら解説してゆく。まず視知覚を中心に、音知覚、臭覚、聴覚の感覚の伝達経路について概説し、その後、視知覚における形、奥行き、恒常性などについて講義する。

授業計画

第1回	ガイダンス
第2回	感覚知覚とは
第3回	視覚の基礎構造：受容器、伝達経路
第4回	視覚の基礎機能：分光感度、暗順応
第5回	色覚：3色説、反対過程説、色覚異常
第6回	音知覚・嗅覚の構造と機能：聴覚系、嗅覚系
第7回	味覚・痛覚の構造と機能：味覚系、痛覚系
第8回	注意：選択的注意
第9回	かたちの知覚（1）：図と地、群化
第10回	かたちの知覚（2）：多義図形、不可能図形
第11回	知覚の恒常性（1）：恒常性と錯視
第12回	知覚の恒常性（2）：大きさの恒常性、かたちの恒常性
第13回	奥行き知覚：奥行き手がかり（単眼手がかり、両眼手がかり）
第14回	パターン認識（1）：鋳型モデル、特徴分析モデル、文脈効果
第15回	パターン認識（2）：ボトムアップ処理、トップダウン処理、抽象化
第16回	筆記試験あるいはレポート

到達目標

知覚について体験しながら具体的な知識を得て、知覚がとても複雑な情報処理過程によって成立していることを理解すること。

履修上の注意

遅刻・欠席はしないこと。授業での質問や討論に積極的に参加すること。知覚の働きについて、積極的に関連図書を調べること。

予習復習

授業の進捗状況に合わせて配布資料などを参考に予習復習を行うこと。授業中に質問したり、意見を求めたりして、予習復習の確認をおこなうことがある。

評価方法

筆記試験あるいはレポートの内容を基本とし、出席状況、授業中の質問に対する解答、討論への参加度を考慮して評価する。

テキスト

資料を配布するので、特にテキストは指定しない。参考書は適宜授業で紹介する。